

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
(ふりがな)	しまむら たかのり 島村 恭則		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	なかの やすと 中野 康人	関西学院大学	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I	KSGa-120718-0	13	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：調査の企画、調査先との交渉、調査の実施、報告書の編集など、ほぼすべてを学生が主体的に行なった。報告の内容も、学部3回生の実習としてはかなりレベルが高いものとなっていると考えている。また、学生たちは、宮古島の住民の皆さんとの間に深いラポールを形成しており、この点も評価したい。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ/領域： フォークロア研究（現代民俗学）から見た沖縄県宮古島の社会と文化

2. 調査の内容/概要： 沖縄県宮古島において、5泊6日のフォークロア調査を実施。聞き取り、および祭祀（ユークイ）への参与観察調査。

3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）： 宮古島市平良地区、砂川地区、伊良部地区の住民。個々の学生が設定した調査テーマに関して、知識や経験を有するインフォーマントを選定。この中には、参与鑑札を行なった伊良部地区の祭祀参加者もインフォーマントも含む。

4. 主な調査項目： ①生業、②祭祀と祭祀組織、③信仰、④食文化、⑤伝統産業。これら5つを柱に、個別調査テーマを13テーマ（公設市場、ミキ、呉服行商、マウガン、模合、宮古上布、追い込み漁、密貿易、ユークイ、年齢集団、祭祀組織、シャーマニズム、南方漁業）設け、聞き取り調査を実施した。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法： 聞き取り調査、祭祀への参与観察調査、祭祀の映像記録調査を組み合わせた。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数： 2012年11月6日～11日。沖縄県宮古島市。13名。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）： 5泊6日のすべてを聞き取り、参与観察につかい、13名の調査者が大量の質的データを収集することができた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法： 現地調査で実施した聞き取りおよび映像記録を統合して民俗誌の作成を実施。その過程で、当該地域の民俗事象の有機的連関を把握しつつ、宮古島フォークロアの特徴を抽出すべくつとめた。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）： 宮古島の現代フォークロアについて多角的に調査成果を得ることができた。具体的には、公設市場、ミキという飲み物、呉服行商、商店街とモアイ（頼母子講）、宮古上布の伝承、追い込み漁、南方漁業、祭祀と祭祀組織（ユークイ）、民俗宗教（マウガン）などについて、従来の報告には見られない現代的展開の諸相を知見として得ることができた（詳細は、添付の調査報告書を参照のこと）。

10. 報告書刊行の予定と概要： 関西学院大学社会学部島村恭則ゼミホームページで、調査者全員の調査報告書を公開中。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。